

早稲田大学は、日本の総合大学で初めて女性に門戸を開いた大学として
私学のモデルとなるべく男女共同参画を推進します

早稲田大学

『研究者養成のための男女平等プラン』

学生数：57,473名（女性比率 31.2%）

専任教員数：1,729名（女性比率 12.5%）

沿革：創立 125 周年（2007.10.21）



活動概要

- 男女共同参画推進室の設置
- 勤務制度の見直し・改善
 - ・ライフイベントサポートシステムの創設
サポートセンターへの助手からの相談を契機として、助手産休代替要員費用の全学予算（ライフイベントサポートシステム）の運用を開始
- 研究者総合サポートセンターの運営
 - ・相談窓口
キャリア初期にある研究者を中心としたキャリア形成支援ならびに、研究と育児・看護等ライフイベントの両立支援を目的とした相談窓口
 - ・交流会の実施
若手研究者同士のつながりをつくりだすため、院生・助手・非常勤講師等を対象として交流会を実施
- 実態把握のための調査の実施
- 教育・交流事業の実施
 - ・女子学生のキャリア形成のための講座の提供
 - ・高大連携事業の実施



早稲田大学は

2007年10月21日に
創立125周年を迎えました

総括責任者名：白井 克彦（早稲田大学 総長）

実施責任者名：棚村 政行（法務研究科 教授）

連絡先：早稲田大学 女性研究者支援総合研究所

<http://www.waseda.jp/prj-giwr/>



文部科学省科学技術振興調整費 「女性研究者支援モデル育成」

研究者養成のための男女平等プラン 早稲田大学

早稲田大学「研究者養成のための男女平等プラン」は、私立総合大学のモデルとなるべく、次代を担う研究者養成において男女共同参画を推進し、**女性教員比率25%（理工系女性教員15%）**を目標として、**男女共同参画推進・勤務制度改善事業 教育・交流事業 研究者総合サポートセンター関連事業**を事業の柱として実施しています。目標達成のため、2006年10月1日に「**女性研究者支援総合研究所**」を設立し、学内の男女共同参画推進ならびに若手研究者支援に取り組んできました。本学は、2007年10月21日に**創立125周年**を迎えました。この重要な節目の日に「**男女共同参画推進室**」を開室するとともに、「**男女共同参画宣言**」を発表しました。



（仮称）研究者総合サポートセンターの開設

平成19年度より相談窓口を開設するとともに、若手研究者同士のつながりをつくりだすため「院生」「助手」「非常勤講師」等を対象とした「交流会」を実施している。

9月20日 「子育て」研究者交流会



高大連携のための教育・交流事業の実施

高大連携のモデル形成のために、**高校生のための研究室訪問**を実施するとともに、TV会議システムを利用しフォローアップを行なうことで、高校生の理系選択支援への効果をはかる。

- 6月16日 高崎女子高等学校SSHによる研究室体験
- 8月4日 オープンキャンパスにおいて清心女子高等学校・大妻嵐山高等学校・浦和第一女子高等学校による研究室体験
- 9月28日 川越女子高等学校SSHによる大学体験実験実習
- 12月15日 浦和第一女子高等学校による旋盤実習体験



ライフイベントサポートシステムの創設

産休取得予定の助手からの相談を契機に、学内教員（現段階では助手）が産休を取得した際の代替員確保のための費用を、全学予算から支出する仕組みを構築した。男女共同参画推進室主導のもと、若手研究者が安心して産休を取得できる環境を整備する。

研究者を志望する学部生・院生に対し、研究者のロールモデルならびにキャリアパスを示す目的で、平成19年度より「**女性・しごと・ライフデザイン**」「**女性・しごと・ライフデザイン（科学技術分野編）**」を開講している。また、学内における**ジェンダー関連講座**の再構築を行ない、平成20年度より提供予定。



実態把握のための調査の実施

平成18年度から19年度にかけて大学院生ならびに若手研究者を対象とした調査（それぞれ全数調査と聞き取り調査）を実施し、研究者としてのキャリアのスタート地点に立つ**若手研究者の実情とニーズ**を量的・質的両面から把握し、プロジェクトの基礎資料とした。

① 「研究者養成のための男女平等プランに関する調査（1） —大学院生の現状と支援ニーズ調査—

2006年12月～2007年1月実施。本学修士課程・博士課程在籍者を対象に、「大学院生活の実情」「進路意識」「必要な支援」に関する項目等を中心に全数調査（web調査）を実施。有効回答数762票、有効回収率は14.5%。2007年3月報告書で結果を公開。

② 「研究者養成のための男女平等プランに関する調査（2） —大学院生の現状と支援ニーズ調査（聞き取り調査編）—

2006年3月～4月実施の聞き取り調査。①の調査実施時の呼びかけに応じた中の15名を中心に22名を対象として「生活環境」「大学院での研究環境」「進路・ライフプラン」「必要な支援」「男女共同参画・支援室に関する要望や意見」等の項目を中心に半構造化インタビューを実施。2007年5月報告書で結果を公開。



③ 「研究者養成のための男女平等プランに関する調査（3） —若手研究者の現状と支援ニーズ調査（聞き取り調査編）—

2007年6月～8月 ④と並行して実施。スノーボールサンプリングによって32名を対象に「仕事」「研究」「ジェンダー問題」「ライフプラン・ライフステージ」「支援」等の項目を中心に半構造化インタビューを実施。2007年10月報告書で結果を公開。

④ 「研究者養成のための男女平等プランに関する調査（4） —若手研究者の現状と支援ニーズ調査—

2007年7月～8月実施。研究者としてのキャリアの出発点に立ち本学で任期付きの業務（助手・助教・客員講師・客員助手・本務校のない非常勤講師）に就く若手研究者を対象に「研究生生活」「職業生活」「家庭生活」「研究と仕事・家庭生活のバランス」「男女共同参画の現状と必要な支援」に関する項目等を中心に全数調査（web調査）を実施。有効回答数208票、有効回収率は19.1%。2007年10月報告書で結果を公開。



早稲田大学
創立125周年



お問い合わせ：
早稲田大学 女性研究者支援総合研究所
kyodo-sankaku@list.waseda.jp
http://www.waseda.jp/prj-giwr/